

「感性を養う環境」

知立市教育委員 宇納 一公

豊かな感性を育み「感じる力」を身に着けるには、特に幼少期の様々な体験からと言われる。五感を震わす豊かな経験が感性を磨き、感動し心を動かされることが「言葉」や「形」で表現する楽しみや喜びとなり「もっと知りたい」「やってみたい」「したい」という意欲が学びの原動力になる。

先日図書館と博物館に訪問する機会があった。大阪市の中心部に流れる堂島川と土佐堀川とに挟まれた水辺にある中之島公園内に2020年に開館した「子ども本の森 中之島」は、建築家の安藤忠雄氏の設計による3階建て延床面積800㎡の建物で「身体で判断する」ための仕掛けが随所に用意されている。開館当時の新聞記事では「豊かな感性を育てたい。子供の頃から知識を養い、自分で物事を判断し、将来の日本や世界を作ってくれるようになって欲しい」と安藤氏は語っている。また、ネット社会であらゆる情報が入手できそうな現代において、あえて自ら身を運び、本を手にとって吟味する図書館の「面倒くささ」が重要だという。閲覧のみの施設だが周辺の中之島公園内なら本を持ち出せる。子どもたちの日常生活や好奇心に寄り添うよう 1. 自然とあそぼう 2. 体を動かす 3. 動物が好きな人へ 4. まいにち 5. 食べる 6. 大阪→日本→世界 7. きれいなもの 8. ものがたりと言葉 9. 未来はどうなる？ 10. 将来について考える 11. 生きることと/死ぬこと 12. こどもの近くにいる人へなど12のテーマの本が並び、子どもの素直な眼差しと感受性に語りかける本が選ばれている。

「あのひとの本棚」というスペースには名誉館長、山中伸弥氏をはじめノーベル賞級の知性や芸術家が読んだ本も紹介する。親子や子供同士ばかりでなく学校などの団体や大人も来館して、マナーを学びながら様々な書物を手に取って、刺激を享受出来る読書体験施設である。

